

平成28年度東部地区小・中学校「ステップ・アップ研修」

1 目的

小・中学校「ステップ・アップ研修」は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

2 期日・会場

7月29日（金）行田市商工センター

8月5日（金）行田市立長野中学校



3 対象者数（254人）

小学校教諭 158人

中学校教諭 96人

4 日程

<第1日> 7月29日(金)

【午前】

- ・開講式
- ・講義1「教育公務員の服務規律の徹底と不祥事の防止」
- ・講義2「よい授業のポイント(授業づくりについて)」
- ・講義3「生徒指導等に関する現状と課題」

【午後】

- ・DVD視聴「接遇について」
- ・受講者代表発表「教員生活2年目を迎えて」
- ・講義4「先輩に学ぶ」
- ・講義5「東部の教育を担う教員として」



<第2日> 8月5日(金)

【午前】(小・中混合11班で実施)

- ・演習「接遇の在り方・クレーム対応」

【午後】(小学校5班、中学校3班で実施)

- ・協議1「学級経営上の課題と指導の工夫」
- ・協議2「学習指導における実践と今後の課題」
- ・閉講式



5 内容・受講者感想

講義1「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

- 1 教員の服務
- 2 教員に求められる資質能力
- 3 教職員事事故事例から学ぶ
 - (1) 体罰
 - (2) 交通事故等
 - (3) わいせつ行為等
 - (4) 個人情報の紛失・盗難等

【受講者感想】

- ・2年目になり、日々の職務への慣れと同時に、気の緩みが出てきていることを自覚しました。教員としての服務の自覚を改めてもち、1学期の行動を振り返りたいと思いました。
- ・いつも子供たちに向けて言っていること、それを私自身が守れていなければ信頼を失うことにつながると思います。担任している子供たちに悲しい思いをさせないようにしていきたいと思います。日々の行動に自覚と責任をもち、しっかりと信頼を築いていきたいです。
- ・教職員事故については、「しない」「許さない」という意識と、個人だけでなく職場の雰囲気作りも非常に重要であると改めて実感した。
- ・講師の先生の「信頼をなくすのは一瞬だけど、取り返すのは倍以上の時間と労力がかかる」、「子供に教えることは教師自身ができる」という言葉が頭に残りました。
- ・「先生」と呼ばれる自覚と責任をもっているかどうかを聞かれ、自身の立場を考えた行動をとること、また、他者の目を意識した行動をとらなくてはならないと改めて考えさせられた。
- ・本日の研修で、もう一度気を引き締めていただきました。子供たちの模範として、「将来こんな人になりたい」と思ってもらえる人になろうと、決意を新たにしました。
- ・交通事故、個人情報の取扱い、公共の場での会話など、周囲から常に「先生」として見られていることを自覚し、大好きな子供たちと離れてしまうことが起きないように、過ごしていきたいと思います。
- ・教員の服務では、根拠となる法令と具体的な事例を挙げていただき、分かりやすかったです。普段の自分の生活を振り返る機会になり、もう一度教員としての振る舞いを考え直さなければならぬと感じました。
- ・求められる教師像を振り返ったときに、果たして自分はふさわしい教師に近づけているのかと不安を覚えた。忙しさが先行してしまって、一人一人の子供を見られていないように感じる。「先生」と呼ばれるのにふさわしくなるために、教育公務員としての自覚をもち、日々学び、自己を磨いていかなければならないと強く思った。
- ・「教職員事故を防げるのは自分しかない」という最後の言葉にハッとさせられました。自分のことを振り返ってみると「これくらい大丈夫でしょ…」と思っている自分が少なからずいることに気付かされました。これまでの自分を今一度見直し、信頼される教師であり続けられるよう、これからも精進して参りたいと思います。



講義2 「よい授業のポイント(授業づくりについて)」

○はじめに

1 生き生きとした授業

- (1)児童生徒一人一人の理解 (2)十分な教材研究
- (3)基礎的・基本的な知識・技能の確実な「習得」とそれを「活用」する思考力・判断力・表現力の育成

2 よりよい授業のポイント

- (1)授業づくりのポイント (2)刊行物・資料の活用

3 アクティブ・ラーニングについて

- (1)アクティブ・ラーニングとは？ (2)こんな授業になっていませんか？
- (3)どんな学習が定着するか？ (4)今後の授業改善
- (5)アクティブ・ラーニング 3つの視点(①深い学び ②対話的な学び ③主体的な学び)

○おわりに



【受講者感想】

- ・子供たちの1時間は、もう戻ってきません。その1時間で身に付けさせたいことを明確にし、子供たちが分かったという喜びを味わわせられるよう、夏休みを使って準備したいと思います。
- ・日々悩みを抱えながら授業をしていた1年目だったが、本日、他校の先生と話す場面があり、悩みを聞いたりすることで気持ちが軽くなった。講義を聞いてよい授業のポイントがつかめた。
- ・ただ話を聞いているだけではなく、隣の人と少し話し合うだけで、今日実際に私たちも生き生きと講義を受けることができたと思います。私自身、心に火を灯してくださった先生を思い出すと、その先生の授業は、グループワークが多かったと気付きました。
- ・アクティブ・ラーニングとは、具体的にどのような指導をすればよいのか、自分の中で理解できました。子供自身が思考しそれを相手に伝えることで、理解が深まるということが分かりました。
- ・最初の話にあった「教えるプロとして見られている」という言葉がずっしりと心に響きました。また、実際に私たちも質問に答えて、頭の中のぼんやりしたものが書いたり話したりしてはっきりすることを感じ、子供の学びに必要なものを再確認することができました。
- ・「聞き手の指導のポイント」がとても参考になりました。今まで指導をしていなかったもので、2学期からぜひ取り組んでいきたいと思います。
- ・今までの考え方を変えさせられる講義でした。授業中にあくびをしている児童、おしゃべりをしている児童がいるのは、自分の授業に魅力がないからであるということに気付かされました。
- ・講師の先生の「子供たちの挙手は多くても簡単な発問にしてしまうのはどうなのだろうか」という言葉で、私の発問は子供たちにとって簡単すぎるものが多かったと気付きました。沈黙の時間、考える時間を恐れず、発問の質を高めていかなければならないと感じました。
- ・授業において、自分が説明をして満足してしまっていると気付かされました。
- ・「追究したい、解決したい」という必要感を持たせるという点が参考になりました。
- ・講義型からの脱却、アクティブ・ラーニングを取り入れていきたいと感じました。
- ・「なるほど」と思う説明がとても多かった。分かりやすく、自分はこんな授業ができているのかと考えさせられた。授業のヒントをもらいました。2学期以降、頑張ります。



講義3「生徒指導等に関する現状と課題について」

- 1 はじめに（生徒指導とは・・・）
- 2 東部地区の児童生徒の問題行動等の状況
(1)暴力行為 (2)不登校 (3)いじめ
(4)携帯電話に係るトラブルについて
- 3 おわりに



【受講者感想】

- ・今日の講義でもありましたが、声を掛けて、少しの変化も見逃さずに指導していくことが大切だと改めて感じました。
- ・「その場の思いつき」で対応するのではなく、十分に情報を集め、「意図的」「計画的」な対応の仕方を実践していきたい。
- ・いじめの認知数が小学校で増えてきていると知り、より細かく児童一人一人の変容に気付けるようにすることが大切であると思いました。毎朝の健康観察や休み時間の様子、授業やノートなど、どんな小さなことにも目を配り、早期発見、早期解決、再発防止に努めたいです。
- ・教育活動のあらゆる場面で生徒指導は行われ、常にアンテナを張ることが必要だと感じた。いじめや不登校など最初の段階で気づき、最善策を考えて行動すれば、未然に防げることもあるのだと思う。担任として、朝の出欠、会話、休み時間の様子をしっかりと見て変化に気づき、信頼される教師になりたいと思う。
- ・子供たち一人一人が自己存在感をもてるように、常に愛情をもって児童に接し、励ましの言葉、認める言葉を掛けることの大切さを感じた。
- ・曖昧な指導をしないことや校内環境の整備、教員内の情報交換など、意図的・計画的に行うことが大切であることを頭に入れていかなければならないなと身が引き締まりました。
- ・教師の一言や行動が子供の将来を左右することを再認識し、子供一人一人とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。
- ・「無意図的な生徒指導を、意図的な生徒指導へ」という言葉が心に刺さりました。1学期は、目の前のことに精一杯で、つい突発的な指導、単発的な指導になってしまった部分があったように思います。
- ・生徒指導の基本を学び、当たり前のことを当たり前に行うことだと感じた。生徒指導こそ、「褒める」チャンスだと捉え、子供と過ごしていきたい。
- ・起こってしまったからの対応ではなく、予測して未然に防いでいく取組をしていくことが大切だと感じました。子供たちの小さな変化に気付いて対応できるような目を育てていきたいです。
- ・生徒指導というと、何となく生徒の非行や暴力行為に対する指導をイメージしてしまいましたが、普段からの学級指導や教科指導の中で、一人一人のために働きかけていること全てが生徒指導なのだと、考え方を変えることができました。
- ・今日の講義で出てきたように、自己存在感を与え、自己決定の場をつくること、いじめや不登校などの問題行動には、一人で解決しようとせず、チームで協力しながら解決していくことが大切だと感じました。



代表発表「教員生活2年目を迎えて」

- 1 勤務校の紹介
- 2 取組紹介
 - (1)教室掲示の工夫 (2)同期教諭の工夫
 - (3)先輩教諭の工夫 (4)生活ノート等のコメント
 - (5)道徳の授業の工夫 (6)小中の連携
 - (7)初任者研修拠点校指導教諭との連携
 - (8)埼玉県公立高校入試 数学の研究 (9)毎時間の授業における目標の明確化
 - (10)協調学習、反転学習を取り入れた授業の実施、ベテラン教諭の授業見学
 - (11)部活動の指導 (12)楽しい職場づくり
- 3 今後の教員生活に向けて



【受講者感想】

- ・代表の関先生が昨年度に学んだことを確実に実践しながら、生徒たちのために日々奮闘していることが伝わり、私自身も頑張らなければならないと感じました。
- ・関先生は、忙しい中でも生徒のことを思い、教材研究や問題分析を行っており、改めて自分も初心を忘れず励まなければと感じた。
- ・関先生の研究熱心な姿勢に心を打たれました。常に学び続けることが大切な仕事であることを再自覚し、向上心をもって研究と修養に励んでいきたいと思いました。
- ・小学校教諭である私も大変勉強になりました。一人一人の成長を書き留める「所見ノート」など、すぐに実践できるものを見習っていききたいと思います。

講義4「先輩に学ぶ」

- 1 学級経営
 - (1)めざせ！日本一 (2)凡事徹底 (3)正直さ
- 2 教科指導
 - (1)苦手＝指導下手ではない (2)実践あるのみ
 - (3)スタート・ゴール (4)一芸は道に通ずる
- 3 校務分掌
 - (1)全体を動かすとは(2)人に手伝ってもらいたければ…
 - (3)一人で！みんなで！ (4)行事を通して成長させる
- 4 2年目の先生へ
 - (1)若手教員とは (2)先輩・仲間・後輩 (3)自信と謙虚さ (4)発想の転換を

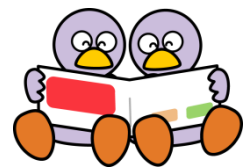


【受講者感想】

- ・改めて志をもち、学び続ける姿勢の大切さを感じました。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の言葉を私も心に刻んで、研究と修養、実践に励んでいきたいと思います。
- ・「4月に決めたことは継続する」「一度言ったことは徹底する」という言葉がとても耳に残っている。決めたことを最後までやり切ることが大切だと思った。
- ・「人に手伝ってもらいたければ、人を手伝うこと」という意識をしっかりとっていこうと思った。古川先生のように、小さなことをコツコツと、謙虚かつ積極的に努力していきたい。
- ・先生の経験から裏付けられた内容は、聞いていてとても納得できました。悩んでいたことへのヒントをもらえました。2学期、子供たちに会うのが楽しみに became.

講義5「東部の教育を担う教員として」

- はじめに
 - 1 教師となって
 - (1) はじめの3年
 - (2) 学び続ける教師
 - 2 時代の潮流
 - (1) 人口減少社会を生きる子供たち
 - (2) 人工知能やロボットの発達
 - (3) 二極化とグローバル化
 - 3 教育のプロを目指す
 - (1) 分かる授業とアクティブ・ラーニング
 - (2) 時を守り、場を清め、礼を正す
 - (3) 一人一人を活かし命が輝く
- おわりに



【受講者感想】

- ・「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」という言葉を生涯大切にしていこうと心に決めた。指導者として、教員としての在り方が詰まった言葉だと思う。
- ・自分自身の学級経営、教科指導、部活動で力のなさを感じていましたが、「悩んでいるときに成長しているときである」という言葉をいただき、少し安心しました。
- ・「凡事徹底」など一点にこだわっていくと、相乗効果で教育活動が活性化するというので、自分も実践していきたいです。
- ・「一点にこだわる」「当たり前のことをやり切る」ということが強く印象に残りました。自分のストロングポイントは何なのかを見つけられるように、日々の実践に全力で取り組みたいと思います。
- ・ねらいに即した授業が重要であり、授業の山場から組み立てていくとよいという御指導があったので、実践していきたい。
- ・子供たちがきらきらと輝けるような言葉かけや授業づくり等、自分にできることを精一杯やりたいと改めて決意できたお話でした。
- ・時代の潮流の話聞いて、今、一緒に学んでいる子供たちが社会に出るときに、自信をもって飛び立てるような力をつけてあげたいと強く思いました。
- ・「すべての短所に長所がある」という言葉を聞き、手のかかる生徒への見方も変わってくると思いました。ここに書ききれないほど印象に残った言葉があったので、メモを改めて振り返ろうと思います。
- ・最初から最後まで聞き漏らしたくないと思いながら聴かせていただきました。何のためのアクティブ・ラーニングなのか、学力テストなのか、お話を聞いてはっきり理解することができました。
- ・経験を踏まえ、時代の流れや教育のプロとして自分はどうあるべきかなどのお話をいただきました。今まで続けてきたことだけでなく、今の時代に合った、またこれからの時代を見通した指導を行っていかなければならないのだと強く感じました。
- ・最後のお話にあった「一人一人を活かし命が輝く」ということ。子供一人一人を活かして輝かせてあげることが自分の役割であると実感した。



演習「接遇の在り方・クレーム対応」

【受講者感想】

- ・応対する一人の印象が、組織全体の印象につながるということが特に心に残りました。組織の一員として丁寧な接遇を心掛けていきます。
- ・電話では、顔が見えず誤解を与えやすいので、「笑顔は声で届ける」を念頭に努力していきたいと思います。
- ・敬語を使うことも大切だが、相手を気づかう一言がとても大切だということを、ロールプレイング等を通して学びました。
- ・接遇についてきちんと学んだ経験がなかったので、接遇について学ぶ場をいただけたことは、とても勉強になりました。
- ・社会人としてのコミュニケーションを見直すよい機会になりました。話し上手になるためには、まず「聞き上手であること」という心掛けは大切だと感じました。
- ・どんなときも話を聞く姿勢として忘れてはならないのは「受容・共感・傾聴」だと気付いた。場面に応じて適切な言葉遣いを使い分けられるよう、社会人として正しい接遇を行っていきたい。



協議1「学級経営上の課題と指導の工夫」

協議2「学習指導における実践と今後の課題」

【受講者感想】

- ・同じ悩みを抱えている同期と、解決するためにはどうするかを考えることで、悩みも緩和されました。
- ・夏休みであることが残念に思ってしまうほど、すぐに子供たちに指導したい、声掛けしたいと感じるものをたくさん教えていただいた。
- ・「全ての子供が落ち着いて学び、全ての子供が活躍できる場が学級である」という指導者の先生の言葉が特に心に残りました。そのために教師は、一人一人の児童理解、意図的・計画的な活動を提案していく必要があることを感じました。
- ・全体の発表で多く挙がっていた、①生徒理解 ②保護者との信頼関係 ③環境整理 ④豊かな人間性 この4つの柱を重点に、2学期の学級経営に取り組んでいきたいです。
- ・子供たち一人一人の理解度を把握し、めあてを明確にし、何を分かなければならないのかを確認しながら日々の授業に取り組んでいきたい。
- ・生徒の視点に立った授業の展開の仕方は、とても参考になった。特に導入の部分では様々な工夫が見られ、自分の教科の授業でも同じような視点からアプローチできるものもあった。
- ・教科の枠を越えて様々な実践例を知り、教材研究に努めていくことが大切であるということ、話し合いを通して深く考えることができた。子供たちにとって魅力ある授業をしていきたい。

